

平成 30 年 7 月 3 日 (火)

ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 ピーター マクミランさん WS 英訳百人一首カルタについて

1,6回目のご来館

マクミランさん6回目のご来館では、前回に引き続き卷子本『あふぎしゅう阿不幾集』(図1)についてのワークショップを行いました。



2,和歌についてのワークショップ

この日は、和歌を専門とする神作研一先生(当館教授)へマクミランさんからご質問がありました。

それは、なぜ百人一首の歌が様々な場面で出てくるのかということ。

現在マクミランさんが扱っておられる扇の草紙には、百人一首や伊勢物語で有名な和歌がいくつか含まれています。そしてそれは、他の作品においても例外ではなく、様々な作品で、古い時代の和歌を見かけることがよくあります。

マクミランさんによると、西洋ならば、新しい作品を作る際には全く新しいものにしようとする傾向があり、日本で同じ作品が何度も繰り返し楽しまれていることに疑問を感じたそうです。

神作先生は、江戸時代前期における、百人一首注釈書の流布の在り方が大きく関わっているということを示しつつ、何度繰り返されても変わらない価値があるものが日本の古典となっているのでしょ



平成 30 年 7 月 3 日 (火)

うと仰っておられました。

日本と西洋における、創作や鑑賞の在り方の違いや、日本人がどのようなものを古典として位置づけてきたのかについて思いを巡らせたひとときでした。

3、「100 人ぐりっ首—英語でとる百人一首—」

7 月 25 日 (水) に、マクミランさんが制作されている英訳百人一首カードを用いたカルタ大会を行います。

英訳百人一首大会は、マクミランさんが長年とりくんでおられるもので、カードも何度も工夫を重ねてつくっておられるとのこと。読み札と取り札を対にすると、ひとつの絵が完成する仕掛けで、絵合わせのような楽しみ方も出来る素敵なカードです。

この日は最新版カードのサンプルをお持ちくださいました。誰にでも親しんでもらえるよう、以前のバージョンよりもサイズを大きくして見やすくしたり、丁度トランプと同じサイズ、質感にしたりしたと教えていただきました。

今回大会に挑戦するのは、立川市を中心とした中学生、高校生たちです。

英語の百人一首、と聞くと難しいのではと思ってしまうのですが、親しみやすいカードで練習すれば、すぐにできるようになります、と太鼓判を押してくださいました。また、百人一首に不慣れな生徒

でも、等しくチャンスがあるのも面白いところです。

参加を予定している生徒さんたちは、是非腕を磨いて当日を迎えていただきたいと楽しみにしています。

